

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス ウィズ・ユウ・ユウが丘				公表日	R7 年 2 月 15 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	4	曜日により利用が偏るばあいがあるが、調整を事業所側で行っている。フロアを区切り児童を配分している。	過密になる場合は、フロアでの事前に児童の振り分けを行う。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	人員配置は規定人数より多い。	今後も引き続き、人員配置には気を配りたい		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	5	一部構造化はできているが、今いる児童にあわせた構造化は出来ていません。バリアフリー対応していません。	可能な限りバリアフリー対応を実施したい。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清潔に保たれている。勉強エリアと、活動エリアを分け分かりやすい空間となっている。	今後もエリアを分けて、療育します。		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		理由がある上で、個室を使うことをみとめています。	今後も年齢や特性に併せた、利用方法など柔軟に対応していきたい。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2	初段階目標設定は低く、徐々にレベルをあげ業務にあたってもらう。	目標設定を明確にし、個々や集団で行う段階的なPDCAサイクルに留意したい。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	前回の評価表を基に、出来ることから迅速に改善を図っています。	全ての従業員が、共通認識を持ちつつそれぞれの意見に十分耳を傾け、迅速に改善できることから行っていきます。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		個別に面談を定期的に行っている。不自由に思うことをヒアリングし、業務改善に繋げています。	事前に面談がある旨伝える必要がある。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4	外部評価はしていませんが、結果を業務改善につなげています。	今後、外部評価を導入するか検討したいと思います。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	2	強度行動障害の研修なども含めて、新たに必要とされる研修の機会は確保されています。	外部の研修に参加するハードルが高く、フランチャイズ内での研修を今後も受講する。		
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		五領域に沿い、期日内に公表済みです。児童発達支援と放課後等デイサービスの両方を公表しています。	常に改善を行い、よりよい支援プログラムを構築できるように努めます。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		モニタリングの際には、保護者のニーズもヒアリングし、作成しています。また、児童を適切にアセスメントを行い、作成しています。	サイクルを守り、適切に行っており、引き続きニーズを把握し作成します。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児童発達支援管理責任者と職員が共通理解の下で、作成しています。	引き続き、こどもの最善に利益を考慮して作成できるよう努めます。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		計画書通りの支援が行われています。	引き続き、計画に沿った支援を行います。		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	可視化できるツールを用い、行動観察を行っています。また、インフォーマルなアセスメントも行っています。	引き続き、両方のアセスメントを行い状態の把握に努めます。		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		必要な項目は全て網羅しており、具体的な内容が設定されています。	成長に合わせて、また特性に合わせて柔軟に対応出来るように努めます		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		チームで行っています。アイデアを持ち寄り、楽しく個々に合わせたプログラムを作成、実行しています。	年齢、体力の差などを考慮してよりきめの細かい楽しい支援プログラムを作成します。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		その日の担当を決めることで、固定化しないよう工夫しています。	引き続き、固定化しないよう努めます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		こどもの状況に応じて個別と集団を組み合わせ、支援計画を作成し、実施している。	引き続き、組み合わせ実施します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝のミーティングで行っています。誰が主になって、活動を回し誰がフォローに入るか。役割を理解して行っています。	引き続き、連携を図っていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		次の日に前日の活動結果を共有し、気付いた点等を振り返りしている。	今後も引き続き行っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		朝のミーティングの際、記録をとり課題を共有しています。改善への糸口を見つける事を日々行っています。	今後も引き続き行っています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		適切に行っています。	今後も引き続き行っています。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	2	理解したものが参画している。	今後も引き続き行っています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	医療機関や教育機関との連携が難しく、学校へのアプローチは引き続き行っていく。	個人情報法の観点から第三者への情報開示が難しいとの回答があり、現状地道にアプローチを行います。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	特定の児童とは行っており、継続したいと思います。	施設に通っている全ての児童の保育園や幼稚園で情報共有と相互理解ができるよう努めます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	5	ほとんど行われず、今後行っていきたい第一課題としています。	相互理解が進むよう、努めます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		6	助言を受けたり、連携を図りたい気持ちはあるが進まないのが実情である	今後は、連携を図れるよう努める
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	交流したい気持ちはあるが、開かれた環境でないため、なかなか進まないのが現状である。	今後は、地域の園との交流が可能になるよう善処したい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や、ラインなどで共通認識を持ち支援を行っている。	今後も引き続きおこなっていきます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	愛着障がいのある保護者を対象に研修に参加してもらった。	今後も必要に応じて愛着障がいに関して研修を行っていきます。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	1	5	運営規定等は、利用前に必ず行っています。また、支援プログラムに関してホームページに掲載し、どういう効果が期待できるか見ることができます。	運営規定、利用者負担額に関しては丁寧に説明を行います。また、支援プログラムに関して、いつでも見られる環境を整えます。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		新しい支援方法を試す際は、必ず保護者の同意をとります。こどもが健やかに自分らしく生活できる空間を提供します。	引き続き風通しの良い関係を築いていきます。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		計画書の作成、更新の際は必ず保護者の同意を得ています。	今後も引き続き丁寧に行います。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	1	5	必要に応じて、可能な場合は来所頂き、不可能な場合は電話で直接支援を行っています。	引き続き保護者が納得いくまでじっくり話を聞き、子どもとの関わり方のきっかけを支援できたらと思います。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	父母会を開催したいと思っているが、実施できずにいる。	今後は、実施できるよう善処します。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		6	相談や申し入れがあった際は、迅速に対応しています。	今後も引き続き行っていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		6	書面にて月の行事など事前に周知しています。また、活動内容は連絡帳などで確認できます。	引き続き行っていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	1	5	カギ付きのキャビネットに保管	今後も、取り扱いに留意します。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		6	書面だけでなく、画像等を利用し意思の疎通を行っています。	引き続き行っていきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	地域住民を招待する実績はありません。	今後、開かれた事業所になる様善処します。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2	定期的に訓練は行っているが、日々の活動として行っているため、体験できない児童がいる。	今後は全ての児童が訓練が出来るようプログラムに組み込みたいと思います。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	1	5	定期的に行っている。	今後も引き続き行っていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		6	入所前に確認済みであるが、通所後は未確認である場合が多い。	今後は、保護者にお知らせを出し、服薬や予防接種等の確認を行います
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		6	医師の診断書が必要な児童がいない。	そういう児童が入所する際は指示書通り対応します。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2	お出かけの際、何が危険かを都度職員間で確認し合い、プログラム等を進めています。	引き続き行っていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	4	十分に周知できていない場合がある。	丁寧に周知していきたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		6	ヒヤリハット事案がある場合は、話し合い共有を行っています。	引き続き行っていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		6	行っています。	引き続き行っていきます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	4	身体拘束する際は、相談員、保護者との相談により実施します。書面にて同意を得て私用の際はどのような場面で使用したかを説明します。	引き続き行っていきます。